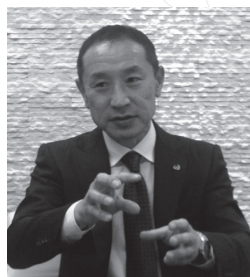


飽和した市場からの未来戦略

～終わりになきチャレンジ精神～



インタビュー vol.6

◆会員プロフィール◆

会 員 名：野村 明宏（中央北支部）
会 社 名：(株)電研社
ホームページ：<http://www.denkensha.co.jp/>

経営理念：終わることのない当社の目的

- 【1】当社は、社会インフラ、民生・産業機器の分野においてお客様から感謝をいただける製品・サービスを提供する事で豊かさを実感できる社会を下さします。
- 【2】当社は、雇用の維持と創出を目指し、より多くの仲間と互いに成長しあう事で活気ある社会と安心な暮らしに貢献します。

2014年度の訪中団（深圳、香港）に初参加して、多くの現地経営者の生き方や苦労話に触れ、「金銭感覚のズレ」「異国で商売する方々のバイタリティー」「社員に対する経営者の意識」という共感と違和感を痛感して、帰国された(株)電研社の野村社長にお話を伺いました。



2014年度
訪中団にて。
左端が
野村さん

——(株)電研社の事業について教えてくださいか？

わが社は昭和25年の創業以来、情報通信ネットワークの構築と電力の安定供給のための電力通信用機材（ケーブルハンガー）の製造及び販売を行っています。大阪本社のほか、東京と仙台に営業所、岡山に工場があります。

——現状はどうですか？

電線を敷設するには不可欠な資材ですので、インフラの整備が進む時代（昭和40年代から平成10年ころ）は好景気でした。しかし、2011年ごろまでに光ケーブルの敷設がほぼ終了して、需要が減り厳しい状況になっています。直近3期は新しい製品の開発に奮闘中です。

——ミャンマーを訪問されていますが…

ミャンマーはまだまだインフラの整備が整っていない発展途上です。ただ、海外では電線を敷設しての有線ではなく無線が主流なので、日本と同様に電線が張り巡らされるようなことはないと思います。だから、今までの自社製品をそのまま売りこむことはできません。しかし、長年当社が蓄積した通信関連技術が売れないかと考えています。コーディネーターを務めたミャンマー人は日本語が堪能で、ミャンマーの潜在能力を感じました。でも、まだまだコネクションを作る段階で、わが社の新たな挑戦の一つでしかありません。

——挑戦の一つ？

その通りです。私もまだ若いし、社員にも交代で海外の空気を吸って刺激を受けてほしい。わが社の技術がミャンマーの生活水準の向上に役に立てばうれしいで

す。わが社の経営理念に通じるところもあります。でもそれとともに、私は岡山工場が忙しく回り利益を出す体質にならないとダメだと考えています。それが経営理念のもう一つの柱なのです。

——もうひとつの柱のために？

3つの会社の経営を引き継ぎました。一つ目は、後継者難だった東大阪の電線会社です。岡山工場を使う資材が違うが同様な設備を持つので、自社の技術に幅を持たせることができないかと模索中です。二つ目の東京の電気設備会社は、東京進出の足場を固めました。三つ目は、軽量で高強度のCFRP（炭素繊維強化プラスチック）を加工する横浜の会社です。CFRPは産業用機器や、医療・宇宙機器の素材として大きな可能性を持っています。最新鋭の航空機のボディや主翼に使用されています。この加工技術を岡山工場に導入、応用できたらしっかりとした雇用が継続でき未来は開けると考えています。

明確な答えが出せなく悩ましいのですが、経営理念の実現に向けて次々と手を打っています。電線の敷設というマーケットは飽和状態で、海外にもそのまま応用できません。しかし、新しいマーケットに向けて着実に歩んでいます。

インタビュー：日中経済交流研究会 広報委員会
坂元鋼材(株) 坂元 正三
(株)ギャレークルー 合田 耕作
(株)リバーフィールド 山岡 和美
まとめ：大山印刷(株) 大山 武久

●野村さんが参加された訪中団の感想文集が、会報に同封されています。会報とともにご一読いただければ幸いです